

5～11 歳で新型コロナウイルスワクチン接種を希望される方、保護者様へ

2022 年 2 月 25 日 大分こども病院

理事長 藤本 保

当院では大分市のワクチン接種センターとして、新型コロナウイルスワクチン(以下、ワクチン)接種を行っております。本ワクチンは任意接種です。努力義務はありません。

日本小児科学会は、5 歳以上の健康な小児に関して「ワクチン接種の意義はある」としておりますが、「接種にあたってはメリットとデメリットを本人と養育者が十分に理解していることが大切である」と提言されています。以下を御一読いただき、理解いただいたうえで、ワクチン接種を検討ください。

参考:日本小児科学会/日本小児医会より一部抜粋・改変

【接種するメリット】

- 子どもを新型コロナウイルス感染症から守るには、まずは周囲の成人のワクチン接種が重要です。その上で重篤な基礎疾患のある子どもへのワクチン接種により、重症化を防ぐことが期待できます。小児に感染を広げる主体である成人への 1、2 回目接種及び追加接種を推進し、その間に十分な準備の下に当該小児への接種を行うことが肝要です。
- 健康な子どもへのワクチン接種にも意義があると考えられます。海外の小児(12～15 歳)の情報では、新型コロナウイルス感染症に対する高い予防効果が期待できます。ワクチン接種後の抗体価も成人にくらべ 12～15 歳の方が高かったという結果でした。5～11 歳の小児に対しても、同ワクチンによる発症予防効果は 90%以上と報告されています。ただし、新しい変異ウイルス(オミクロン株など)への有効性を示すデータはまだ十分に得られていません。

【接種するデメリット】

- 接種部位の疼痛や発熱・全身倦怠感や頭痛などの全身症状が出る場合があります。ただし、5～11 歳の小児では、若年成人(25 歳以下)と比べると副反応の出現頻度は低かったと報告されています。
- まれですが、主に若年の男性においてワクチン接種から 4 日前後で心筋炎を発症することが報告されています。心筋炎を発症した場合も入院は必要ですが、ほとんどは軽症で自然に回復します。ワクチン接種から 1 週間程度の際に、胸の痛みや動悸、息切れなどの症状が出た場合は受診してください。
- 開発されてまだ数年のワクチンのため、長期的な安全性が確立されていません。

【より詳細な情報は以下の QR コードより「小児科学会」「小児科医会」の提言をご一読ください】



日本小児科学会



日本小児科医会